第２１回

中学生訪中親善使節団報告書

平成２６年７月２９日（火）～８月３日（日）６日間

上海・南昌・西安

Takamatsu International Association

公益財団法人 高松市国際交流協会

第21回 中学生訪中親善使節団

你好！

南昌市豫章中学与日本高松市中学生友好使节团联欢会
南昌市豫章中学と高松市中学生友好使節団との友好交流

目　　次

1　団員名簿 …… 1

2　日　　程 …… 2

3　使節団の活動状況 …… 3

4　感 想 文 …… 14

第21回 中学生訪中親善使節団　団員名簿

団　　長	馬場　朋美	（公財）高松市国際交流協会常務理事
同行看護師	佐藤　静香	高松市民病院　看護師
同 行 職 員	何　　燕萍	（公財）高松市国際交流協会職員
団　　員	阪口　このみ	高松市立木太中学校　　3年
〃	宮下　由紀乃	高松市立山田中学校　　3年
〃	藤本　有香	香川県立高松北中学校　3年
〃	萱原　將生	香川大学教育学部附属高松中学校　2年
〃	河野　ひかり	高松市立古高松中学校　1年
〃	野口　大翔	香川大学教育学部附属高松中学校　1年
〃	山道　宝	香川大学教育学部附属高松中学校　1年

第21回 中学生訪中親善使節団　日程

月日（曜日）		主な行事		宿泊
1	7月29日（火曜日）	10：30	高松空港集合（出発式）	（上　海　泊）
		12：40	春秋航空9C8890便にて上海へ	
		13：50	上海浦東国際空港着	
			豫園・南京路見学	
2	7月30日（水曜日）	午　前	上海動物園見学	（南　昌　泊） ホームステイ ※引率者はホテル泊
		13：00	上海虹橋空港発MU5561便にて南昌へ	
		14：30	南昌（昌北空港）到着	
		16：00	贛江市民公園見学（観覧車）	
		18：30	ホストファミリー対面式（高松・南昌日中友好会館）	
3	7月31日（木曜日）	8：30	ホテル集合	（南　昌　泊） ホームステイ ※引率者はホテル泊
		8：40	滕王閣見学へ	
		9：30	滕王閣見学	
		11：00	華潤万家買物	
		12：00	南昌市外事僑務弁公室主催歓迎昼食会	
		13：30	豫章中学校訪問へ	
		14：00	豫章中学校見学・生徒と交流	
		17：30	南昌市人民政府表敬	
		18：00	南昌市人民政府主催歓迎会	
		20：30	ホームステイ先訪問（団長、引率）	
4	8月1日（金曜日）	6：20	ホテル集合	（西　安　泊）
		7：55	南昌（昌北空港）からCZ5175便にて西安へ	
		9：40	西安咸陽国際空港着	
			華清池、兵馬俑博物館・青龍寺見学	
5	8月2日（土曜日）	午　前	城壁・碑林・大雁塔・陝西省歴史博物館見学	（上　海　泊）
		15：00	西安咸陽国際空港へ移動	
		16：00	西安咸陽国際空港着	
		17：15	春秋航空9C8948便にて上海へ	
		19：15	上海浦東空港着	
6	8月3日（日曜日）	6：30	ホテル出発	
		8：45	春秋航空9C8889便にて高松へ	
		11：40	高松空港着（解散式）	

使節団の活動状況

7月29日（火曜日）　使節団 1日目　●高松～上海

朝10時30分、高松空港に集合。7名の生徒達は、それぞれに不安と期待に胸をふくらませ、緊張したいい笑顔であった。出発式には、阪口さんが笑顔で挨拶。お見送りに来て下さった家族の方々に元気よく手を振り、春秋航空にて高松空港を出発。1～2時間の出発遅れは覚悟の上であったが、なんと定刻通りの出発！幸先のいい出発となった。

約2時間のフライトを経て上海浦東空港に到着。荷物を受け取りロビーに出ると、南昌市外事僑務弁公室の顔さんと、上海ガイドの蒋さんが出迎えてくれた。バスに乗り上海万博の為に作られたという高速道路で、上海の名園である豫園へ向かった。バスの中では、高松の何十倍もの大都市の光景に圧倒されながら、中国での交通事情や買い物での注意、説明を受けた。

15時20分豫園到着。「豫」は愉を示し、すなわち楽しい園という意味である。四川省の役人であった潘允端が父の潘恩の為に贈った庭園で、親孝行や豊作を祈る気持ちを込めて造られたそうだ。石造りの庭には、中国らしい建造物の美しさと歴史を感じさせられる。お土産物店や飲食店は多くの人でごった返していたが、短時間のショッピングを楽しんだ。

16時半南京路で約1時間の買い物。女の子達はハーゲンダッツのアイスにご満悦。18時レストランへ到着。初めての円卓を囲んでの食事は淮揚料理。子供たちの人気メニューはチャーハン。料理の辛さもそれ程気にならず、

ナッツがお気に入りの宝くん、西瓜に夢中の大翔くん、etc…それぞれ、上海での中華料理に満腹。19時半、食事を終え、夜景スポットへ移動。「I LOVE上海」のライトアップされた文字がすぐ視界に飛び込み、川沿い一直線に走るイルミネーションの夜景は、ロマンチック。みなでの思い出の一枚を最後に、22時ホテルへ到着。翌朝の集合時間を確認し、解散、初日お疲れ様でした。

7月30日（水曜日） 使節団 2日目　●上海～南昌

7時モーニングコール。30分朝食会場へ。前日の疲れも全く無く、今日も元気な笑顔。優雅な朝食バイキングにみんな朝から食欲旺盛、15分遅れの出発となってしまった。

9時上海動物園到着。約70ヘクタールもの広さのある動物園の中は、入口の金魚の泳ぐ立派な水槽から始まり、遊園地かと思われる遊具、家族連れが伸び伸びと遊べる広場など…愛媛県のとべ動物園を大きくした雰囲気。孫悟空のモデルとされる金絲猴（きんしこう）や中国国家保護動物である東北虎、ジャイアントパンダは中国にしか生息していない貴重な動物であるそうだ。目的の大熊猫（パンダ）に会うまでには、猛暑の中かなりの時間歩いた…が、やっと会えたパンダも暑さの中ぐったり、左腕をおでこにあてお昼寝くつろぎモード。でもその姿もやはり、愛らしく癒された。みんな思い思いに写真を撮り、出会えた動物たちにご満悦。女の子達は色違いのお揃いのパンダ帽子を買い、時々口ずさむ4人のコーラスで、暑さを吹っ飛ばしてくれた。

11時45分上海虹橋空港着。13時南昌へ出発。ケンタッキーで買ったハンバーガーを機内でほおばり、中々美味。

14時30分南昌空港到着。空港には南昌市外事僑務弁公室の黄小燕主任、蒋さん達が大きな花束を持って歓迎して下さった。「歓迎」と書かれた赤い横断幕の元、記念撮影。今年もやはり熱烈歓迎。本当に有り難い。

16時、贛江市民公園見学。1周約30分の大観覧車から見た南昌市の一望は絶景。12000元/㎡のマンションや高層ビル、英雄大橋、八一大橋、南昌大橋など…人口だけでなく、すべてが高松の10倍に感じられた。

18時20分南昌市日中友好会館到着。大きな拍手で出迎えられ、いよいよホストファミリーと対面式。お互い緊張した面持ちで一列に整列する子供たち。黄主任、馬場常務の挨拶の後、1人ずつ名前を呼び握手、記念撮影。そしてホストの子供たちと共に、それぞれのホームステイ先へ向かった。みんな頑張ってね！大きく手を振り子供たちを見送った。

7月31日（木曜日） 使節団 3日目 ●南昌

今日は公式行事いっぱいの日。8時、ホストファミリーが相次いでホテルまで生徒を送ってきた。ホームステイ先の話を興奮気味に話しあっているのを見て心配だったホームステイは問題なさそうで一安心。

8時40分ホテルを出発。朝のラッシュ時間なのでバスが道路に出るのに一苦労。まず江南三大名楼の一つである観光名所地滕王閣へ。滕王閣は唐代の初期に建てられたが、戦乱にあうなどして何回も立て替えられ、今のは29代目、1989年に宋代の滕王閣に模して再建された。外観の美しさと最上階から見た贛江の景色が本当に素晴らしい。中ではちょうど歌と古代楽器編鐘の演奏があり、それを見て楽しんだ。滕王閣周辺ではさらに増築工事が進んでおり、完成後の変貌が楽しみだ。

10時30分滕王閣をあとにして、市内のスーパーに寄り、買い物。12時南昌市外事僑務弁公室が主催する歓迎昼食会に出席。地元の珍しい料理に団員が舌鼓を打った。辛いものに挑戦する！煮つけしたアヒルの舌に挑戦する！辛かったが意外とおいしい！いける！

午後、団員が一番楽しみにしている豫章中学校との交流会。研修中の成果を発表するステージが出番を待っている。そして同年代の異国生徒に会える！わくわく、どきどき！学校は夏休み中だが、熊春和校長、劉建仁書記と3名の副校長をはじめ、100人ぐらい生徒達が集まってくれた。交流会は豫章中学校生徒二人の進行で進められ、熊校長、馬場団長、生徒代表藤本有香さんの挨拶後、此方の使節団員は合唱、高松市に関する○×クイズ、詩吟、踊り『恋するフォーチュンクッキー』、豫章中学校は男子の合唱、フルスの楽器演奏、青春をいっぱい感じる踊りなどが繰り広げられみんなで楽しい交流時間を過ごした。

キャンパスの前で先生方と8月5日に高松を訪問する生徒たちと記念写真撮影。あと、学校の中庭を見学し、（豫章中学校は南昌市が指定したガーデン（花園）式学校） 17時、みんなが手を振っているなか学校を離れた。

17時30分南昌市人民政府表敬訪問。南昌市人大常委会　鄒　書玲副主任さんは、笑顔で私たちと握手をして下さった。鄒副主任さんの歓迎挨拶後、馬場団長が挨拶し、高松市から預かった大西市長の親書と記念品を渡した。生徒代表の宮下さんが「今回の貴重な体験を通じて日中友好親善の架け橋となれるよう多く学んで、日本へ持ち帰り自分たちの将来と国境を越えた輝かしい未来に貢献したい」と決意を述べた。その後、南昌市が主催する歓迎夕食会に出席。鄒副主任をはじめ南昌市の関係者の方々と一つのテーブルで歓談しながら美味しい料理を楽しんだ。

その席で詩吟の話がでて、野口君と河野さんにもう一度披露してもらった。教育関係の話や南昌市の将来展望などについてのお話も聞き、たいへん有意義な時間を過ごすことができた。8時夕食会が終わり、団員はホストファミリー迎えの車に乗り込み帰宅。明日早朝南昌を出発！みなさん忘れ物なく、集合時間に遅れないでね！

みんな見送ったあと、20時30分に外事僑務弁公室の甘裕紅さんと顔さんの同行で野口君のホームステイ先の趙炎君ファミリーを訪問。検察官のお父さんと設計師のお母さんと三人家族。趙炎君は日本のアニメが大好きで日本語も習っている。お茶が趣味のお父さんは「雪菊」というお茶をたててくれた。野口君が西瓜好きということで、西瓜を何個も買ってきたと。家族の一員として、使節団員を温かく受け入れてくれたホームステイ先のみなさんに本当に感謝！感謝！

団員のみなさんは今頃ホームステイ先で何をして、ホストファミリーとどんな会話をしているかなとホテルへ帰る途中に思いながら、車窓から見えたライトアップされた滕王閣は美しかった！

8月1日（金曜日） 使節団 4日目

●南昌～西安

早朝6時20分集合。

生徒たちが、各々のホストファミリーに送られて集まってきた。朝の5時前から朝食を準備してくださったというホストファミリーのみなさんに、ただただ感謝の一言。

西安へ向け、フライトの時刻まで余裕がなく、生徒たちはホストファミリーとの慌ただしい別れをして、みなで手を振りあう中、バスは出発した。空港に急ぐ車の中で、別れ難くて、そっと涙を拭う生徒も見られた。

しかし、そこは若い彼ら、南昌市での公式行事を無事に終え、ほっとした安心感も加わり、おしゃべりに花を咲かせ始めた。

南昌空港には、南昌市外事弁公室の黄主任が見送りに来てくださり、最初から最後まで心のこもった行き届いたおもてなしに感謝。再会を約束して、後ろ髪引かれる思いでお別れした。

西安へ向け、中国南方航空C25175便は、ほぼ定刻7時55分に離陸。西安咸陽国際空港に予定より20分早く着陸。何と凄いと思っていたら、ここから延々空港内滑走路を走り、ぴったり到着予定時刻の9時40分に停止した。なるほど…。

西安でのガイド楊さんの出迎えを受け、市内観光へ出発した。当日は快晴、予想最高気温は37℃の猛暑日であった。

西安市は、香川県と友好省県である陝西省の省都で、人口は約851万人。かつては長安と称され、1000年の歴史を有する古都である。

最初に訪れたのは、華清池。

楊貴妃が湯あみをしたことで有名な温泉である。最後に、足湯ならぬ手湯を体験。43℃というが、ちょっとぬるめに感じる湯が汗ばんだ手に気持ち良かった。

午後からは、西安でのメイン「兵馬俑」へ。13時30分暑い盛りの時刻に駐車場に到着。

ここからが大変だった。駐車場から、兵馬俑博物館までは歩くこと約20分弱。生徒たちは「もう歩きたくないよ～」という感じで、バテ気味か？それでもとにかく１号坑館へ。

ここでは、兵、馬合わせて約6000体が発掘されたそうな。佇立する姿は、圧巻の景色である。続いて、2号坑、3号坑と進んでいくが、これでもかのスケールに圧倒され、みんないささか疲れた。夏休みということもあって、中国人家族連れ、欧米からのバカンス客で人の波が押し寄せるという感じである。

波をかき分け駐車場に戻り、本日最後の訪問地青龍寺へ向かった。青龍寺は弘法大師空海ゆかりの寺である。この縁で、香川県と陝西省は縁を結んでいる。県によって建立された空海記念碑の前で記念撮影を1枚。

夕食は、近くのレストランで西安名物「餃子尽くし」の餃子14種類。みな満腹でホテルへ。

朝早くから、長く暑い一日お疲れ様。ゆっくり休んで明日に備えようと思ったら、夜中に爆音のような大きな音で目が覚める。窓から外を見れば、そこは不夜城、花火が上がっていた。

8月2日（土曜日） 使節団 5日目

●西安～上海

今日はゆっくりホテルを8時30分出発。生徒たちも、昨日のお疲れモードからは脱したようだ。しかし、本日も予想最高気温は36℃で、またもや猛暑日注意である。

西安最後いえ中国最後の見学にバスはスタートした。15分ほどで、城壁の西の城門に到着。ここは、安定門と言われる、かつてシルクロードへのスタート地点であったところである。城壁の上には登ることができる。上は普通の道路のようで、道幅は15メートルある。城門1周総延長13.7㎞。そこを観光用レンタサイクルが走っている。確かに、歩いて回るのは無理だ。いかにも堅固な城壁である。

今日8月2日は、中国では七夕（旧暦）であり、顔さん曰く、中国特有のバレンタインデーだそうだ。男性は女性にバラの花やチョコレートを贈るのだと。それを表すように、街の花屋には高そうなバラがいっぱい。抱えて歩くカップルの姿も見られた。

次は碑林へ。顔真卿をはじめとする書の巨匠たちの石碑は見ごたえ十分である。しかし、中学生にはちょっと難しいのか？何となくみんな関心が薄そうだ。駆け足で碑林を後にして、大雁塔へ。

ここは、かの玄奘三蔵（三蔵法師）が仏教経典などを保存するために建立したものである。7層64m。大慈恩寺の境内にある。西安のシンボル的存在である。時間等の都合で塔に登れないことはちょっと心残りであった。

この近くで昼食。精進料理との説明があり、肉でない肉、魚でない魚がどんなものか生徒たちも興味津津であった。巻き寿司が登場したりと、趣向の凝らされたものが多く、どれもそれなりに美味しかった。しかし、生徒たちのお気に入りは、ここでもチャーハン。これが西安最後の食事である。十分満腹の後最後の見学地陝西省歴史博物館へ向かった。

博物館は、凄い混雑。いかに夏休みの週末とは言え、館内は人で埋まっている感じだ。博物館特有の薄暗い照明の中では、油断するとすぐ見失ってしまい迷子になりそうだ。ゆっくりと時間をかけて見学すれば、興味深い中国悠久の歴史に触れられる素晴らしい展示が多かった。いささか時間が少なくて残念。

西安に未練を残しながら、空港へ向かう。空港への高速道路は大渋滞。その中を、どの車も凄い運転テクニックで車線変更を繰り返しながら縫うように走ろうとする。本当はほとんど進んでないのだが…。もう、スリル満点だ。

しかし、この時はその技術に期待。とにかく上海へのフライトに間に合わなくては困る。明日日本へ帰れなくなってしまう。いろんな意味で、ハラハラ、ドキドキしながら無事空港へ。間に合った！上海に着いてほっとひと安心する。今晩は、浦東空港内のホテルで明日の帰国に備える。

8月3日（日曜日） 使節団 6日目

●帰国

5時モーニングコール。6時10分ホテルロビーに集合してレストランへ。食べる時間は20分しかない。慌ただしい朝食後、徒歩で国際線出発ステーションへ。搭乗手続きをすませ、出国審査のところで、今回の訪問でずっと同行してお世話になっていた顔さんとお別れ「再見！」した。

出国審査は、上海到着した日の入国審査と打ってかわって出発に間に合うかと心配するほど大混雑。心配と裏腹に審査が速く進んでおり、出発ゲード横の売店で手土産のお菓子など買う時間がちょっとだけ出来た。

春秋航空は定刻通り離陸、6日間離れた高松へ。11時30分高松空港に無事到着したが、中学生であっても税関申告が必要で、書類を記入するのに時間がかかって出るのは殆ど最後になった。到着ロビーにはすでにご家族の方々が出迎えに来てくださり、元気に帰った団員たちを見て安心した表情であった。解団式では、萱原君が、中国での経験やホストファミリーの方への感謝、さらに、保護者の方々への感謝の気持ちをしっかりと述べた。

出迎えの家族と一緒に帰宅する使節団員の後姿をみて今晩の食卓はきっと訪中のお土産話にいっぱい花を咲かせることだろう。

感　想　文

案ずるより産むが易かった（？）

第21回中学生訪中親善使節団団長　公益財団法人高松市国際交流協会
常務理事　　馬場　朋美

第21回高松市中学生訪中親善使節団一行10名は、平成26年7月29日（火）から8月3日（日）までの6日間の日程を、無事に終えることができた。

中国では、友好都市南昌市を訪問し、地元中学生宅にホームステイさせていただいたり、公式の訪問行事を行ったり、さらには南昌市の歴史に触れたりと、貴重な体験をし、多くの感動を得ることができた。上海、南昌、そして今回は、従来の北京に代え香川県ゆかりの地である西安の各都市をまわり、発展著しい中国の現状を見、歴史と自然に触れ、その国民性を肌で感じることができた。

「豫章中学校訪問」

今回の訪中は、そのスタートからいろいろと紆余曲折を重ねた結果、やっと実現することができたものだけに、感慨も一入といったところである。第21回訪中は、当初、平成25年3月（24年度）に実施を予定されていたものであるが、当時の日中関係の困難さの中で、止む無く募集を中止した。その後、26年3月（25年度）に変更し、募集を行った。しかし今度は、かのPM2.5濃度上昇のニュースや、テロ事件発生、鳥インフルエンザの流行等の問題が目白押しとなり、またしても、例年になく応募者が少ないという状況であった。南昌市外事弁公室と対応を検討した結果、夏に延期してはどうかという結論に達しての実施であった。初めての夏の実施ということ、また初めて西安まで足を延ばすということなど、いつもとは違う状況下でとにもかくにもスタートした。

暑い時期だけに、熱中症の心配。ちょうど、中国海軍の軍事演習期間と日程が重なってしまったことによる航空機の欠航、遅延の恐れ等不安材料を抱えての出発であったが、強運に恵まれた団は、そんな心配を吹き飛ばし、6日間の訪問日程を駆け抜けた。案ずるよりは…幸運であった。

南昌市では、南昌市人大常委会　鄒　書玲副主任さんはじめ、外事弁公室黄主任さん、顔さん、甘さん、豫章中学の熊校長先生など、様々な方からの熱烈な歓迎ぶりに感激し、この友好関係を長く続かせたいとの思いを新たにするものであった。７人の団員生徒たちは、個性豊かで仲が良く、積極的に物事にあたり、貴重な体験ができたように思う。

２日間のホームステイでは、中国の同年代の日常生活を体験することができ、一生忘れることのできない思い出となったであろう。ホストファミリーのみなさんは、とても温かく、お忙しい中を、一生懸命に生徒と関わってくれていることが感じられ、とてもうれしくほっとした。

豫章中学での交流会では、双方生徒の熱のこもった演技と笑顔に、若い彼らのいい繋がりができたと思う。しかし、南昌市での滞在時間は、正味1日半とあまりに短く、もう少しゆっくりとホストファミリーとの交流を楽しみたかった、南昌の街を体験してみたかった、というのが切実な思いである。各移動のフライト時刻等の関係でこのような慌ただしい滞在になってしまったことに、忸怩たる思いが残っている。今後の課題である。

日中関係がいまだきな臭く報じられている時期ではあるが、こんな時だからこそ訪問して良かったと思う。黄主任さんともお話ししたが、国や政治問題を超え、人と人の繋がりを大切に、双方の若い世代が交流を続けてくれることを祈りたい。今回、貴重な経験をした7名の中学生団員には、周りの人たちに中国、南昌の素晴らしさを伝えて欲しいと同時に、交流の懸け橋として大きく羽ばたいてくれることを期待している。

「南昌市人民政府表敬訪問」

南昌市のみなさん、団員生徒のみなさん、関係みなさんにありがとう。謝謝！！

謝 謝！

高松市民病院　看護師　　佐藤　静香

6日間の親善訪問だったが、6日間という短期間で、これ程心の変化を感じる事は無いほどの、本当に貴重な旅となり感謝の気持ちで一杯だ。

5回のフライトを経て上海・南昌・西安をまわり、中国5000年の歴史から、経済大国と言われるまで発展した今の中国、自然や文化・生活習慣の違い、中国のスケールの大きさを肌で感じる事が出来た。中でも最も心に刻まれたのは、豫章中学との交流会である。人数の大差に全く怖じる事なく、堂々と　歌、○×クイズ、ダンス、詩吟を披露した7人には本当に感銘を受けた。褒めてあげたい気持ちで一杯だった。それぞれの個性を活かし、練習以上の成果を十分発揮できていたと思う。また豫章中学の生徒達の伝統的な踊りや演奏、数々のパフォーマンスは、笑顔が活き活きとしており非常に刺激的であった。

上海での夜景や観覧者からの一望は絶景！童心に返っての乗り物遊びは本当に楽しかった。西安での、青龍寺、碑林は日本の京都そのものであり、親近感が深く、印象深い場所である。秦の始皇帝と楊貴妃の恋の舞台となった華清池や、大雁塔や兵馬俑、シルクロード、すべてが悠久の歴史であり、一体一体表情の違う兵馬俑には、時を越え、伝わるものがある。

「西安碑林にて」

また8月2日は中国の旧暦7月7日、St.Valentinedayと呼ばれる七夕。中国では男性が女性にバラの花を贈る日であるらしい。中国では、3／14、8／2、Xmasと3回も男性が贈り物を送る日があるのに、女性からの贈り物の日は無いらしく女性の強さの現れであり、羨ましい限りである。

旅行中に萱原君からふいに出た名言 「上海で『思い出の忘れ物』をした」と。旅行から帰った今もすごく心に残っている言葉である。その地に何かを忘れたり、その地に心残りが出来たならば、きっとまた、その地の事を思い出し、逢いに、拾いに行ける気がするから、思い出を忘れてくるのもいいんじゃないかと。いつかその忘れ物、拾いに行って来てね！

「お世話になった顔さんと」

良くも悪くも個性豊かな7人ゆえに、大きな優しさの中に、時に厳しく心配そうな表情の絶えなかった何さん、歴史について補足説明をしてくれ、団を引っ張ってくれた馬場常務、上海動物園で記念用のチケットをgetしてくれた頼もしい蒋さん、旅行後半では弾けてくれた、笑顔のniceな顔さん、西安での凛々しい楊さん、南昌で細やかな気遣いをして下さった黄主任、甘さん、皆さんのおかげで本当に、日中友好の架け橋と思わせて頂ける親善訪問となった。女の子達に少し靴づれがあったものの、皆　猛暑の中元気で頑張ってくれて本当にありがとう！！旅の後半には、皆さんといる事が家族の様に感じられ居心地良く、帰国日には別れが寂しく感じられた。

この6日間での「出逢い」「感動」「学び」は一期一会、心の宝となった。

高松・南昌両市の友好親善と共に、訪中親善使節団が限りなく続けられる事を心よりお祈り申し上げるとともに、第21回訪中親善にご協力頂いた皆様、改めて感謝の意を表したい。謝謝！

真夏日の中国訪問

公益財団法人高松市国際交流協会　事務局員　　何　燕萍

今年の真夏に日中関係が緊張する中にも関わらず、中国を訪問したいと強い決意を持つ７名の中学生使節団員と一緒に中国を訪問してきた！

出発日の7月29日あたりでは中国の航空管制が原因で多くのフライトがキャンセル・遅延を余儀なくされているなか、乗る予定の春秋航空が定刻通りに高松に飛んできてくれて、好いスタートができたことで一安心。最初の訪問地上海では上海の名園豫園を見学、あと南京路歩行者天国で自由行動。言葉の壁があるにも関わらずハーゲンダッツに入り、時間がかかったがオーダーに成功した4名の女子団員がなんでもチャレンジする勇気と「初生牛犢不怕虎」（生まれたばかりの子牛は虎を畏れることなし）のたくましさを見せてくれた。

友好都市の南昌市では、使節団は温かい歓迎と持て成しを受けた。特に南昌市外事弁公室の至れりつくせりの心遣いに感動した。南昌市の中学生との交流会は、毎回の訪問で一番楽しみにしているものである。豫章中学校は男子の合唱、フルスの楽器演奏、青春をいっぱい感じる踊り、トランプのマジック、こちら使節団は合唱、高松市に関する○×クイズ、詩吟、踊り『恋するフォーチュンクッキー』などが繰り広げられ、みんなで楽しい交流時間を過ごした。なかで7問ほど用意した○×クイズは1問目で大分の生徒が脱落してしまい、3問目で20名ほど残り、クイズ終了をいう予想外の展開となったが、せっかくの機会なので、最後の問題までやりとおし高松市のことをしっかりとアピールした。使節団員としての熱意を垣間見ることができた。

団員のホームステイ先を一軒訪問した。ホームステイはどんな時でも政治と関係なく家族の一員として迎えられて、そこには国境を越えた人と人との温かいふれあいがあり、毎回の事でありながら感動させられる素晴らしいプログラムと思った。

香川県とゆかりのある陝西省西安市では、観光客の波に押し寄せられながら、世界遺産の兵馬俑、大雁塔、陝西省歴史博物館などを「走馬看花」した。 空海ゆかりの青龍寺では唐の時代に思いを馳せながら、この縁がいつまでも続かなければならぬと思った。

振り返ってみると今回の訪問はまさに「一路順風」。六日間であったが、5回にもわたる飛行機での移動は奇跡といえるほどすべて順調！正直にいうと暑い時期の訪問なので熱中症や食事のことなどいろいろとすごく心配していたが、南昌市の温かい歓迎と持て成し、そして、いつも笑顔絶たず、元気いっぱい、仲良し兄弟みたいな7名の使節団員のおかげで訪問を無事、円満に終えることができた。

六日間の短い訪問であったが、団員たちは中国の歴史や文化に触れ、国境を越えた同世代の子供たちとの交流、ホームステイで人の心の温かさに触れ一回り大きく成長したと思う。使節団員のみなさんがこれからも高松と南昌、日本と中国の友好関係の促進に力を添え、日中の友好の架け橋になることを期待してやまない。

今回の訪中に際し、団員を暖かく送り出してくださった保護者の皆様、南昌市外事弁公室の皆様、南昌市豫章中学校の皆様、ありがとう。また、多大なご協力くださった高松空港振興期成会にお礼申し上げたい。

「大雁塔周辺」

最高の宝物

高松市立木太中学校　3年　　阪口　このみ

今回私が参加した訪中親善使節団としての中国訪問は、長いようで短い6日間でした。

私は、初めての中国訪問で楽しみというよりも不安で胸がいっぱいでした。でもそんな不安も出発してすぐに消えていました。

それは、私には同じ中学生の6人の仲間、馬場団長や何さん、佐藤さんたちがサポートしてくださっていたからです。どんな時でも仲間どうし支え合えあってとても楽しい有意義な時間でした。

「豫園で集合写真」

1日目、豫園を見学後、上海市内の街中で自由行動の時間がありました。そこで驚いたのは、日本のユニクロや吉野家、アメリカのケンタッキーのお店がありました。中国も日本の会社が進出していることでした。私たちは世界中にお店があると聞いていたハーゲンダッツに入りました。店員の方が一生懸命話しかけてくれたのですが、何と言っているのか分からず困ってしまいました。

結局注文にかかった時間は20分。すごく時間がかかってしまい、集合時間に間に合いませんでした。そのことで団長さんやみんなに迷惑をかけましたが、食べたアイスクリームはとてもおいしく、いい思い出になりました。

「美しい風景」

次にホームステイでは、ホームステイ先のご家族にあたたかく迎えていただきました。私は、あまり英語が上手ではないので受けいれてくださるのか、また会話がはずむのかと心配していました。しかし、ホームステイ先に着くとそんは心配はなくなりました。

会話中は、分からないことばも多くありましたが、一生懸命伝えようとしてくださったこともあり、なんとかお互いに理解できたと思います。また、英語を話す機会にもなるので、ホームステイを一日長くしてほしいと思いました。

私は今回、訪中使節団の一員として、中国上海、南昌市、西安市などを訪れました。豫園、兵馬俑博物館などの観光名所も回ったので、中国の文化をよく知ることができました。また、ホームステイを通じていろいろな交流ができました。

この6日間を支えてくださった馬場団長、何さん、佐藤さん、一緒に行った6人の仲間たち、本当にありがとうございました。

私にとって、この6日間の日々は、一生の宝物です。

「大都会　上海」

「数の多さにびっくり!!」

繋がるってイイネ！

高松市立山田中学校　3年　　宮下　由紀乃

他人様のお宅に泊まってお食事も頂く。全く会ったことのない、その上、言葉の違う国の他人様。これまでに経験したことのない緊張感・不安、それと同時に感じる期待感。数日前から、どうも落ち着かず中国への出発の日を待ちました。

まず初日、「ここは中国。」と実感したのは、ハーゲンダッツのお店に入った時でした。当たり前の事ですが、メニューが全て中国語で書かれていて、さっぱり分からない。注文する時に体当たり＆拙い英語で挑戦してみても通じない。でもアイスクリームを食べたかったので恥ずかしい、なんて言っておれず試行錯誤して結局、注文から商品を受け取るまでに約20分もかかりました。初めての海外訪問で当たって砕けた瞬間、それと炒飯が美味しくて使節団のみんなと炒飯争奪戦になったこと。この経験は、きっと一生忘れられないと思います。

「ホストマザーの手作りごはん」

二日目、一番楽しみにしていたホストファミリーとの出会いの日です。テンションが急上昇。会ってみるとホストシスターの文珏は、流暢な英語で話しかけてきました。今度は緊張が急上昇。彼女の語学力に「えっ？私より年下なの？」と思ってしまいました。それと不思議に思ったことは文珏には弟がいることです。「一人っ子政策の国で何故？」これは帰国してから調べました。理由が分かって、一つ賢くなりました。とても親切なホストファミリーに心癒され安心して眠りにつくことが出来ました。

次の日は南昌市の豫章中学校を訪問しました。皆さんがダンスを披露して下さいました。楽しく時間が過ぎました。でも実は、その後の南昌市人民政府表敬での団員代表挨拶が気になり一人で緊張していました。何とか南昌市人民政府表敬と挨拶は終わり歓迎夕食会では、次から次へと出てくるお料理に自分の胃袋がついていきかねました。この時が中国で一番多く食べ、満腹感を越えてしまった瞬間です。

夜が明けて、とうとうホストファミリーとお別れする時になりました。昨夜のうちに中国語の本や辞書を片手に書いた手紙を渡しました。通じたかどうかは分かりませんが、自分の気持ちを中国語で一生懸命書きました。時間が許すなら滞在を続けたかった私の気持ちが通じていることを願っています。

今回の訪中で学んだことは、挑戦することは素晴らしい事で自分を見つめ直し、その先には必ず道が開け、そこには自分が蒔いた種が花を咲かせることが出来るということです。仲間達が開いた道と自分の道が繋がり、国籍が違う道にも繋がり、いずれは地球一周出来るのではないかと夢は、どんどん広がり、これをきっかけに、世界の為に何かできる人間になりたいと思っています。私一人では何も出来なかったでしょうが、仲間がいたから乗り越えられたことや意見交換をしたこと、一緒に笑い合い、異国の文化を学べたことは一生の宝です。

最後になりましたが今回お世話になった方々に心より感謝申し上げます。「当たり前の幸せ」を大切に生きていきたいと思います。

「大好きなホストファミリー！」

「ホストシスター・弟くんとパチリ」

訪　中

香川県立高松北中学校　3年　　藤本　有香

私は、今回の訪中において当初の目的でもあった「世界を知る」ことが出来ました。一週間という長いようで短い期間の中、内容の濃いものになったと思います。

1日目、いよいよ中国に行くというドキドキで胸がいっぱいで、現地に着いてからも正直興奮していました。上海は、やはり人が多く、ビルなどの建物が多く建ち並んでいました。また、チャーハンの味にも感動しました。

2日目、午前中今までにないというほどの広さがある上海動物園に行きました。そこで女子はおそろいのパンダ帽子を買いました。午後から友好都市の南昌へ。ホストファミリーとの対面に、またしても胸が高鳴りました。初日は、川のクルーズです。川沿いにあるビルを使っての壮大なマッピングのようなものには感動しました。

3日目、歓迎会では、豫章中学校のみなさんに今まで研修でやってきたことを発表しました。クイズでは、開始して3問ぐらいで終わってしまい、いろいろなハプニングはありましたが、無事終わりました。ダンスでも歌でも緊張しましたが、成果は出たと思います。歓迎夕食会では、とうがらしを生で食べるという無謀なことをしましたが、とても楽しかったです。ある意味、良い思い出です。

4日目、ホストファミリーとお別れ。2泊3日本当に早かったです。ホストファミリーとは、中国語を教えてもらったり、歌を一緒に歌ったり楽しかったです。西安では、THE歴史という感じで、とにかく歴史を感じるばかりでした。教科書にも載っていた兵馬俑も生で見ることが出来ました。

5日目、博物館に行きました。本当に人が多くて押し潰されそうになりました。建物内には、中国の起源前から今までの数々の道具などがあり、すごいなぁと思いました。

6日目、5泊6日を終え帰ってきました。中国は広くて、行く場所、行く場所によって、環境、雰囲気、料理の味など、やはり違い、おもしろかったです。その違いを楽しめたかなぁと思います。また今回の訪中を通して、他校の生徒と交流をもち、一層仲良くなれました。この出会い、この機会に感謝し、そして両親や周りの関係者の方々に感謝します。

この5泊6日で感じたことを次回、中国に行く機会があれば、そして世界で生かしたいと思います。

「上海動物園にて」

「建設中の上海センタービル（632m）」

待ちに待った中国訪問と一つだけの忘れ物

香川大学教育学部附属高松中学校　２年　　萱原　將生

平成26年7月29日。この日は僕の中学校生活の中で最も素晴らしい日となった。「やっと中国に行ける！」という思いを胸に前日の夜、僕は眠りについた。

今回の第21回中学生訪中親善使節団は、当初予定していた春休みに中国に行く事ができなかった。それは中国の大気汚染（pm2.5）がひどくなるなど、複数の問題が重なって、今回初めて延期になったのだ。そして、待ちに待ったこの日がやって来た。

初日、僕は春秋航空に乗って中国という大地に足を踏み入れた。上海浦東国際空港を出ると、僕の予想以上にたくさんの高層ビルと大きく太い道路が目にとびこんできた。「これが経済大国という事なのか！」と思い知らされた。それから豫園に見学に行き、待ちに待った夕食の時間となった。初めての本場の中華料理はどれもこれもおいしかった。特にチャーハンは日本と全く違い、びっくりするほどパラパラしていて本当においしくて、おかわりをたくさんした。しかし、何さんに「程々にして、明日、明後日に備えて、体調を調整した方が良いよ。」と言われて、腹八分目でやめた。その後も初めての体験ばかりで不安と楽しみが入り混じる中、時を過ごし、上海動物園やホームステイ、豫章中学校訪問、兵馬俑見学などたくさんの行事を済ませ、8月3日に日本に無事帰ってきた。

初めに、一番心配だったホームステイでは、英語がなかなか伝わらなかったが、ホストファミリーが優しく接してくれたお陰で、言葉よりも心が通じ合ったような気がして、安心して過ごせた。

次に、一番驚いた事は、中国の3日目の昼食（しゃぶしゃぶ？）でお腹をくだし、日本から持参した僕の特効薬である「正露丸」を飲んでも効かなかった事だ。「いや～中国の食べ物はよく見極めなくてはならない。」と身をもって思い知らされた。

更に、姉が訪中した時よりも物価がかなり上がっていて、お土産を買おうとした時に値札を見て、自分の目を一瞬疑ってしまう程だった。

しかし、僕は今回の中国の旅で一つだけ心残りがある。それは上海空港で見た日本にはないゴーカートの事だ。出国手続きが終わった後、空港内を歩いていると、目の前をゴーカートが走り去って行った。日本では見た事のない光景で「僕も乗ってみたい！」と思った。しかし、そのチャンスがもう一度来る事はなかった。でも、団員の皆や馬場団長、何さん、佐藤さん、ホストファミリーと過ごした日々は僕の中で最高のものとなった。

最後に、この訪問に携わって下さった関係者の皆様方に、心から感謝の意を表したい。

謝謝！

「圧倒される兵馬俑」

文化の違いを知った中国

高松市立古高松中学校　1年　　河野　ひかり

初めての海外旅行、中国！なのに、出発前は全然実感がありませんでした。上海から移動中、漢字ばかりの看板が並ぶ通りを見て、「中国に来たんだ！」と感動しました。

中国はあまり地震がないので、高層ビルが、たくさん建ち並んでいました。上海には完成すると、世界一の高さになるビルがありました。その大きさや技術に驚かされました。

バスを降りる時、ガイドさんからリュックは前に抱えるように注意されました。治安の悪さにビックリ！帰国してからもしばらくクセになっていました。中国は自転車大国と聞いていましたが、あまり自転車に乗っている人はいませんでした。

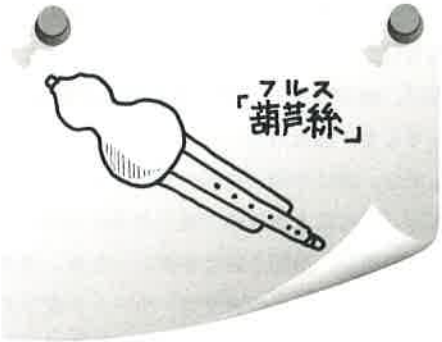
「西安華清池にて」

驚きでいっぱいの中国でした。その中でも一番印象的だったのは、豫章中学校へ訪問したことです。事前研修で練習してきた、歌・踊り・クイズ・詩吟の出し物をしました。

中国の中学生たちも、いろいろな出し物をしてくれました。男女8人ずつのダンスは、息がピッタリ合っていて驚かされました。一人の女子生徒が『借りぐらしのアリエッティ』を日本語で歌ってくれましたが、あまり日本語に聞こえませんでした。私たちも中国語で『茉莉花（まつりか)』を歌いましたが、中国の人にはきちんと通じなかったかもしれません。発音の大切さを痛感しました。

ホストファミリー先の蒋さんが、ひょうたん型の楽器を演奏していました。日本では、見たことのない楽器で、不思議な音色でした。名前を知りたかったけど、言葉が通じず…　帰国後、調べると『葫芦絲（フルス)』という、ひょうたんと竹でつくられた縦笛だと分かりました。中国独自の楽器をもっと知りたいと思いました。そして、私も日本独自の楽器や、日本文化である詩吟を中国の人にも伝えたいです。

中学校での交流会は、すごく盛り上がって楽しい思い出になりました。



この旅行の前は、中国に対していいイメージがありませんでした。PM2.5や黄砂などの公害問題、最近話題の食品偽装問題は私たちの生活にも、直接害がおよぶ問題で、中国訪問は不安でいっぱいでした。しかし、私が知り合った中国の人たちは、良い人ばかりで今回体験したことも、中国のほんの一部にしかすぎませんが、私の中の偏見は少なくなりました。報道にまどわされず、自分で見て、判断することが大切だと思います。

これから、世界共通の英語をもっと勉強し、世界中を旅行したいです。

最後になりましたが、引率者の皆さん、一緒に参加したメンバーの皆さん、お世話になりました。また、今回の親善使節団への参加をすすめてくれた祖母、大森先生や詩吟の先生方には、大変感謝しています。

本当にありがとうございました。

「南京路の店にて」

人と中国の歴史に学ぶ

香川大学教育学部附属高松中学校　1年　　野口　大翔

7月29日12時40分、僕は高松空港を飛び立った。この時の僕は、初めての海外ということもあり、期待と不安が入り混じっていた。上海の空港に着くと、ここはもう日本では無いという実感が湧いてきた。そしてバスに乗り、上海の街並みを眺めていると、とても高いビル群や曲がりくねった高速道路など発展している都市だった。

バスの中でひと段落つくと、豫園というところに着いた。豫園は、かなり昔からある庭園なので僕のイメージの中国とぴったりあっていた。これから楽しみだと思った。

「豫園にて」

2日目、気温が高い中、上海動物園に行った。僕が行ったことのある動物園よりもはるかに広く、まるでサファリランドの様な感じだった。そして南昌に移動し、ついに、ホストファミリーと会う時がやってきた。対面式の時、僕はとても緊張していた。ホストファミリーはどんな人だろうかなどと、思考をめぐらせていた。見ると、ホストブラザーのヤン君は背が高く、とても優しそうな顔をしていた。僕は初め、言葉がうまく通じるだろうかと不安に思っていた。そうして、おどおどしていると、ヤン君が日本語で、『大丈夫ですか。』と声をかけてくれた。僕はヤン君が日本語を上手く話せることにとても驚いた。夕食を食べた後、お父さんが秋水公園に連れて行ってくれた。日本では見たことのないような噴水のスケールだった。聞くと、170mもの高さまで上がるという。

3日目、最初に滕王閣を見学した。この建物もTHE中国という感じがした。その後、豫章中学校で行われた交流会に参加をした。僕達は、ダンスや歌、詩吟などを披露した。どれも上手くいった。豫章中学校の生徒達のダンスや歌はとても上手く、長い間かけて練習してくれていたのだと思った。その後、南昌市人民政府表敬へと移った。僕は鄒副主任さんの前で詩吟（富士山）を詠じた。『とても上手だね』と褒めていただいた。その夜はぐっすり眠ることができた。

4日目、ついにホストファミリーとの別れの日がやってきた。僕は、ありがとうという気持ちをこめて手紙を送った。バスの外から手を振ってくれているホストファミリーを見ると、涙があふれてきた。南昌を離れ西安に着くと、兵馬俑を見学した。兵馬俑はとても数が多く、なんと八千体もあると聞いた。秦の始皇帝の権力はすさまじい物だと感じた。

「ホストファミリーのご家族と」

5日目、歴史博物館を見学した。たくさんの貴重な物が納められていて、大国中国の歴史と力を考えさせられた。

6日目、とうとう、中国を離れる日がやってきた。ガイドの方や中国の景色と離れるのはさみしいが、日本に帰って、この経験を自分の将来に役立てたいと思った。

帰国後、楽しかった親善使節のことを思い出しながら、荷物の片づけをしていると、ヤン君が贈ってくれた絵が出てきた。その絵の裏には、『日本国民と中国国民は永遠の友』『私たちは永遠の友』と書かれていた。こんなにも素敵なメッセージをもらえたことに感謝している。僕はこの友情をいつまでも大切にしたい。最後になったが、こんなに素敵な人たちや、古く偉大な歴史に巡り合えたことは、とても大切な経験になったと思う。また、今回の親善使節の関係者の皆さん、ガイドさんや、ホストファミリー、家族などにとても感謝している。隣国の人に直接触れ合えたのは皆様のおかげだ。

こんなにためになる親善使節に連れて行ってくださりありがとうございました。謝謝！

6日間の研修を終えて

香川大学教育学部附属高松中学校　1年　　山道　宝

僕は今回、中学生訪中親善使節団の一員として6日間、中国に行ってきました。この6日間の中で心に残ったものは、たくさんあります。その中で特に楽しかったことを紹介します。

ひとつは、ホームステイでの出来事です。僕は、李君の家にホームステイをしました。李君ファミリーは、皆優しく、親しみをもって話しかけてくれました。また、朝食や夕食として出た料理は、どれもとてもおいしかったです。特に、僕の好物の肉まんは、中に具がたくさん入っていて、とてもおいしかったです。そして、李君ファミリーは、英語で話しかけてくれましたが、ところどころ何を言っているのか、さっぱり、分からないフレーズもありました。そんな時には、スマートフォンの通訳機能が大活躍、おかげで会話がスムーズにできました。

「兵馬俑坑のようす」

ふたつめは、広い中国のさまざまな観光です。僕達は、上海動物園や兵馬俑博物館に行きました。上海動物園では、パンダやライオン、トラなどがいました。どれも、まじかで見たので、とても迫力があり興奮しました。兵馬俑博物館では、その名の通り、兵俑や馬俑、つまり埴輪のような造形物が、ひとつひとつ規則正しく、整然と並んでいました。これには、いったいどんな意味が込められているのかと、非常に不思議で興味深かったです。

今回の訪中団は人数が少なかったですが、みんなで力を合わせて、とても充実した6日間にすることができました。また、機会があれば、ぜひ参加したいです。

国際交流として、僕たちは、何ができるのだろうか。日本でいれば、毎日、ごく当たり前の普通の暮らしを送っています。国際交流とは、たとえば、電車やバスの中でお年寄りに席を譲る感覚と基本は、同じで、どちらも大切なのは第三者に関心を持つことだと思います。「お互いを思いやり、違いを認め合う気持ちがあること」が何より大事なのです。そうすれば、国際交流も身近なものに感じられます。

地球規模の世界を視野に入れつつ、僕たちの生活の中でできることを考え、行動すること。僕たちが見たこと感じたことを自分の言葉で飾らずに相手に伝えること。そうして、世界への関心の裾野を広げることができたらずばらしいと思います。自分一人が頑張っても交流とは言えないかもしれないけれど、一人ひとりが思いやりを持てば、それは大きな力になると思います。

最後になりましたが、この研修でお世話になった馬場団長、佐藤さん、何さん、使節団のみんなに「大大大謝謝！」

「そびえ立つ滕王閣」

「イケメン（？）バーズ！」